

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	西高倉
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	2,948,499 千円	
年 効 用	②	185,545 千円	
廃 用 損 失 額	③	61,663 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	39 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0528	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	3,452,447 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.17	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	26,038 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆
営農経費の節減	営農経費節減効果	19,697 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆
	維持管理費節減効果	46,861 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	92,949 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路
計		185,545 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	大願西
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 総費用総便益比の算定

区分	算定式	数値	備考
総費用（現在価値化）	①＝②＋③	1,083,750 千円	
当該事業による費用	②	892,898 千円	
その他費用	③	190,852 千円	関連事業費＋資産価額＋再整備費
評価期間	④	45 年	当該事業の工事期間＋40年
総便益額（現在価値化）	⑤	3,024,221 千円	
総費用総便益比	⑥＝⑤÷①	2.79	

2. 年効果額の総括

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	120,074 千円	排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ
品質向上効果	19,071 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物：水稲
営農経費節減効果	19,257 千円	排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ
維持管理費節減効果	△318 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設：用水路、排水路
計	158,084 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	大願南
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 総費用総便益比の算定

区分	算定式	数値	備考
総費用（現在価値化）	①＝②＋③	1,243,948 千円	
当該事業による費用	②	1,052,493 千円	
その他費用	③	191,455 千円	関連事業費＋資産価額＋再整備費
評価期間	④	45 年	当該事業の工事期間＋40年
総便益額（現在価値化）	⑤	2,870,499 千円	
総費用総便益比	⑥＝⑤÷①	2.30	

2. 年効果額の総括

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	112,709 千円	排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ
品質向上効果	16,628 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物：水稲
営農経費節減効果	22,948 千円	排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ
維持管理費節減効果	△466 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設：用水路、排水路
計	151,819 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	峰岩
-----	---------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	3,586,285 千円	
年 効 用	②	246,939 千円	
廃 用 損 失 額	③	179,473 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	33 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0569	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	4,160,404 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.16	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	21,235 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ
営農経費の節減	営農経費節減効果	96,659 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ
	維持管理費節減効果	35,502 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	64,729 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
地域の生活環境の保全・向上	安全性向上効果	541 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	地域用水効果	78 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	河川流況安定効果	28,172 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	水辺環境保全効果	23 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		246,939 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	沼の内
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	4,664,124 千円	
年 効 用	②	286,586 千円	
廃 用 損 失 額	③	230,651 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	35 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0553	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	4,951,736 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.06	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	24,308 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、アスパラガス
営農経費の節減	営農経費節減効果	64,950 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、アスパラガス
	維持管理費節減効果	91,829 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	72,514 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
地域の生活環境の保全・向上	安全性向上効果	620 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	地域用水効果	90 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	河川流況安定効果	32,248 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	水辺環境保全効果	27 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		286,586 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	中美唄
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	4,476,364 千円	
年 効 用	②	341,698 千円	
廃 用 損 失 額	③	232,512 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	33 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0569	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	5,772,725 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.28	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	36,782 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、アスパラガス
営農経費の節減	営農経費節減効果	138,070 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、アスパラガス
	維持管理費節減効果	52,107 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	77,476 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
地域の生活環境の保全・向上	安全性向上効果	700 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	地域用水効果	102 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	河川流況安定効果	36,431 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	水辺環境保全効果	30 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		341,698 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	滝川東
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	2,457,000 千円	
年 効 用	②	143,570 千円	
廃 用 損 失 額	③	2,831 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	39 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0528	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	2,716,298 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.11	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	22,010 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、そば、たまねぎ、かぼちゃ、だいこん
営農経費の節減	営農経費節減効果	50,019 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、そば、たまねぎ、かぼちゃ、だいこん
	維持管理費節減効果	36,846 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	34,695 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路
計		143,570 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	江部乙西
-----	---------------	-------	-----	-----	------

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	2,383,500 千円	
年 効 用	②	139,677 千円	
廃 用 損 失 額	③	8,449 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	41 年	当該事業の耐用年数
還元率×（1＋建設利息率）	⑤	0.0516	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥＝②÷⑤－③	2,698,470 千円	
費 用 便 益 比	⑦＝⑥÷①	1.13	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	21,402 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、そば、ねぎ、たまねぎ、だいこん、スターチス
営農経費の節減	営農経費節減効果	43,382 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、そば、ねぎ、たまねぎ、だいこん、スターチス
	維持管理費節減効果	37,658 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	37,235 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路
計		139,677 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	高島北
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	1,953,704 千円	
年 効 用	②	118,289 千円	
廃 用 損 失 額	③	70,776 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	37 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0539	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	2,123,825 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.08	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	11,300 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆
営農経費の節減	営農経費節減効果	36,320 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆
	維持管理費節減効果	22,579 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	31,404 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、揚水機場、排水路、農道
地域の生活環境の保全・向上	安全性向上効果	165 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	地域用水効果	18 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	河川流況安定効果	16,481 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	水辺環境保全効果	22 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		118,289 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	下古山
-----	---------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	4,872,579 千円	
年 効 用	②	316,323 千円	
廃 用 損 失 額	③	275,908 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	42 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0511	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	5,914,366 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.21	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	35,127 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、牧草
営農経費の節減	営農経費節減効果	69,663 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、牧草
	維持管理費節減効果	43,734 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	153,825 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路
地域の生活環境の保全・向上	公共施設保全効果	13,974 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		316,323 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	筑北
-----	---------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	4,014,864 千円	
年 効 用	②	230,519 千円	
廃 用 損 失 額	③	69,556 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	47 年	当該事業の耐用年数
還元率×（1＋建設利息率）	⑤	0.0490	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥＝②÷⑤－③	4,634,913 千円	
費 用 便 益 比	⑦＝⑥÷①	1.15	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	21,425 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、ブロッコリー、小豆、トマト
営農経費の節減	営農経費節減効果	48,215 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆、ブロッコリー、小豆、トマト
	維持管理費節減効果	44,599 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	75,369 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路
地域の生活環境の保全・向上	公共施設保全効果	6,237 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	河川流況安定効果	33,270 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	洪水被害軽減効果	1,404 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		230,519 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	軽舞
-----	---------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	5,287,251 千円	
年 効 用	②	298,331 千円	
廃 用 損 失 額	③	58,718 千円	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	43 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0507	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	5,825,523 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.10	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	11,895 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆
	品質向上効果	519 千円	農道の整備による防塵、荷痛み防止 対象作物：水稻、小麦、馬鈴薯、トマト、すいか、スイートコーン、かぼちゃ
営農経費の節減	営農経費節減効果	126,595 千円	ほ場の排水性の改善や大区画化等による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、小麦、大豆
	維持管理費節減効果	53,843 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路、農道
	営農に係る走行経費節減効果	1,530 千円	農道整備による車両の大型化や走行時間の短縮
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	101,938 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路、排水路、農道
地域の生活環境の保全・向上	一般交通経費節減効果	96 千円	農道の整備による一般交通の時間短縮
	地域用水効果	921 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
	公共流域水辺環境保全効果	994 千円	関連である国営事業で計上している左記の効果について、水比で効果計上 対象施設：用水路
計		298,331 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	福岡	地区名	芥屋
-----	---------------	-------	----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	861,000 千円	
年 効 用	②	51,651 千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	32 年	当該事業の耐用年数
還元率×（1＋ 建設利息率）	⑤	0.0577	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	⑥＝②÷⑤－③	895,164 千円	
費 用 便 益 比	⑦＝⑥÷①	1.03	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産 量の増加	作物生産効果	5,748 千円	ほ場条件が改善され農地の高度利用が可能となり、営農計画や土地利用の向上に伴う作物ごとの生産量の増減が見込まれる効果 対象作物：水稻、大豆、麦、トマト、キャベツ、ブロッコリー、レタス等
	品質向上効果	5,303 千円	道路整備により生産される作物の品質や商品としての価値が増減する効果 対象作物：イチゴ、トマト
営農経費の節 減	営農経費節減効果	33,084 千円	ほ場条件の改善に伴い機械の利用効率が高まることにより、労働時間の短縮及び機械経費等の節減が見込まれる効果 対象作物：水稻、大豆、麦、イチゴ、トマト、キャベツ、ブロッコリー等
	維持管理費節減効果	△26 千円	現況土水路をライニング水路へ整備することにより、草刈、溝さらえ等に要した経費が節減され、現況道路を拡幅整備することにより、草刈、路面補修等に要した経費が増減することが見込まれる効果 対象施設：揚水機場、道路、用排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	5,536 千円	現況水路及び農道の改修により、その機能が継続して発現することが見込まれる効果 対象施設：道路、排水路
地域の生活環境の保全・向上	非農用地等創設効果	2,006 千円	本事業で公共用地を創設することにより、用地交渉や事務的経費が節減される効果
計		51,651 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農地集積加速化基盤整備事業	都道府県名	熊本県	地区名	阿 蘇 三 期
-----	---------------	-------	-----	-----	---------

1．費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	1,130,850 千円	
年 効 用	②	66,572 千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総 合 耐 用 年 数	④	32 年	当該事業の耐用年数
還元率×（1＋建設利息率）	⑤	0.0577	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥＝②÷⑤－③	1,153,760 千円	
費 用 便 益 比	⑦＝⑥÷①	1.02	

2．年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	4,531 千円	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稲、大豆、キュウリ、トマト、おひし草、里芋、トウモロコシ、小麦、イタリアライグラス
営農経費の節減	営農経費節減効果	32,049 千円	ほ場の大区画化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稲、大豆、キュウリ、トマト、おひし草、里芋、トウモロコシ、小麦、イタリアライグラス
	維持管理費節減効果	7,492 千円	用排水施設等の改修、統廃合に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：揚水機、用水路、排水路、道路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	22,500 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：揚水機、用水路、排水路、道路
計		66,572 千円	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	農村振興総合整備事業	都道府県名	山口県	地区名	下関南部
-----	------------	-------	-----	-----	------

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	1,280,788 千円	
年 効 用	②	77,474 千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	51 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1＋ 建設利息率)	⑤	0.0469	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	⑥＝②÷⑤－③	1,651,898 千円	
費 用 便 益 比	⑦＝⑥÷①	1.28	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額	効果の内容
農作物の生産 量の増加	作物生産効果	2,292 千円	水路整備による単収の増加 暗渠排水整備による単収の増加及び作付面積の 増加 対象作物：水稻、キャベツ
営農経費の節 減	営農経費節減効果	1,827 千円	暗渠排水整備による労働時間の短縮や機械経費 の節減 対象作物：水稻
	維持管理費節減効果	25,516 千円	用排水施設等の改修に伴う施設維持管理費の節 減 対象施設：水路、ため池、鳥獣侵入防止柵
施設更新によ る従前の農業 生産の維持	更新効果	1,829 千円	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の 維持 対象施設：水路
施設更新によ る災害防止	災害防止効果	46,010 千円	ため池の改修による農作物、農地及び家屋等の 被害防止、猪等による農作物の被害防止
計		77,474 千円	